

入口の部分に接するところでは、30mCi 封入時、24時間の積算で290mR あったが、その周辺では、90mR でNo. 3の135mR より少ない。100mCi に換算して、前方への漏えいは10cm で14.5mR、100cm で0.4mR、側方へは10cm で0.92mR、100cm で0.10mR であった。

9.2±3.8, 30分14.9±6.1, 60分16.5±6.0, 90分13.3±4.0 であった。以上の結果より、RCCのACTH キットは臨牀的に利用する価値があるものと思われた。

5. 利用率と貯蔵鉄との関係

○齊藤 宏 山田 英雄 小原 健
(名大・1内・放)
田宮 正 林 大三郎
(名大・放部)

鉄代謝により造血と破壊の dynamic な aspect を得ることができるが、有効造血の Index である利用率(% RCU) は貯蔵鉄量の多少によりかなり大きく支配される。人体内の貯蔵鉄量を定量する方法は、十分満足すべき方法がないので% RCU からその量を知ることができればさらに得るところが大である。

そこで、各種疾患患者で% RCU と貯蔵鉄量比(% Storage) とを求めて検討した。% Storage の値は、全Hb・Fe量を、体重から求めた全身鉄値から差し引いた値を全身鉄値で除して得た。ヘモクロマトーシスの場合には、汚血または Desferal で除去し得た全鉄量をもって、全貯蔵鉄量とし、これにHb・Feを加えたものを全身鉄量とした。かくて、% RCU と% Storage との関係を見ると、逆相関関係が明らかとなった。しかし、% Storage が少ないほど% RCU は高目で、その理由は% RCU が、貯蔵鉄からの⁵⁹Feのフィードバックを赤血球に追加固定した分も含むためである。その計算式を求めると、一定の傾向で一致した成績が得られた。% RCU から% Storage を知るためにも、Storage の影響を差し引いて正味の造血状態を知るためにもこの方法は有用である、ただし、著明な無効造血例では% RCU が低く、最大転入はきわめて早期にあることや、輸血をうけているなどのために% RCU と% Storage との関係は乱れていた。腎不全、再不貧、正常とともに追加固定が理論値にそって貯蔵と逆比例的に行われていた。

4. ACTH の Radioimmunoassay

○上田 操 竹田 亮祐
(金沢大・2内)

ACTH Radioimmunoassay Kit (Radio Chemical Center, England) を用い、ヒト血漿 ACTH を測定した。〔方法〕ACTH スタンダード血清、ACTH free 血清、血漿サンプル(2~5ml)を0.1gのガラス粒に吸着させ、蒸溜水、0.1N 塩酸にて洗浄後、50%(V/V) アセトン水にてガラス粒よりACTH を溶出。55°C N₂ ガスにより乾固。緩衝液250~700 μl を加え、Radioimmunoassay (RIA) 用抽出液を作成。RIA 用抽出液0.1ml に抗ヒトACTH 抗体0.1ml を加え4°C 16~20時間 incubation, ¹²⁵I-ACTH 0.1ml を加えさらに4°C 6~8時間 incubation. Charcoal にてB, F を分離した。

〔結果〕結合率は40~55%, 測定感度は30 pg/ml で、したがって2~5ml の血漿を用いた場合、10~400pg/ml の範囲で測定可能であった。回収率実験では0~300pg/ml の添加で平均101.8%, 同一 assay 内、異なる assay 内での変動はそれぞれ7.7%, 13.7%であった。午前8~10° 正常者の血漿ACTH 値は39.8±18.1pg/ml, クッシング症候群腺腫例は測定感度以下、両側過形成例3例では254, 305, 345pg/ml, ネルソン症候群では1570, 2700pg, 正常者 Dexamethason 2 mg 1日の投与でACTHは測定感度以下に抑制されていた。L-8・Vasopressin 10p.u. 筋注によるACTH の反応は前31.5±23.7, 30分58.1±38.4, 60分47.4±29.1, 90分37.2±29.1 pg/ml, 同時にRadioimmunoassay により測定した血漿Cortisol 値は前